

過去から未来に流れる河

清里中の皆さん元気デスカ～！

私たちは、清里夏祭り実行委員会 坊太郎祭り主催者です。

この祭りは、1984年 昭和59年夏に始まりました。

そして2001年祭りをリニューアルさせ、ここまで来ました。

今年は、41年目です。過去2回の中止を余儀なくされています。

1回目は大干ばつによるもの、2回目は新型コロナウイルスによるものです。

そして日本全国、何百年前から続く歴史ある祭りも、令和になり中止に
追い込まれているのも事実です。

安全とか、〇〇ハラスメントとか、働き方改革とか、SNSとか、
つい何年前までは思いもよらないことが個人や組織、社会に押し寄せています。
時に、祭りは時代と逆行することがあります。歴史があればあるほど、
今にそぐわない場合が多々あるように思います。

ニュースに出で来る都会の祭りは、人がたくさんいて活気あふれていますよね。
ある意味不思議です。地方が廃れ、大都会ばかりが賑やかな世界。
私たちは、いや少なくとも私は挑戦しています。

ここ清里が元気でなくて日本の元気はあるのか、清里がなくなって、
日本の未来はあるのか。清里イコール地方です。小さいものや片隅を
大切にしないで平和や幸せがあるのか。

坊太郎祭りは、ここ清里から上越にそして全国に私たちの元気と想いを
発信するためのものであり、仲間とともにここで暮らす意義を確かめ合う場です。
さあ、今年の夏2024年8月10日です。

よちよち歩きの子どもから90代の先輩までみんな集まって思いっきり
遊びましょう!笑いましょう!

そして、いずれはここを去って行かれる方も、ぜひ8月になったら思い出して下さい。

そして、ときには祭りに参加してください。

私たちは、いつまでも待っています。

ここは、みなさんと私たちとの約束の地でもあるのですから。

2024.8.10
待ってますよ!

清里夏祭りその歴史と想い

1984年 昭和59年8月25日 第四土曜日に記念すべき第1回サマーカーニバルin清里が開催された。

時代はまさに好景気で右肩上がりです。だれもが上を見ていたような気がした。

各地いたるところで箱モノが創られ、周囲の町村ではナイター施設が次々と出来。ここ清里村でもようやく中学校にナイター施設が完成した。

当時、30代の若者のサークル自称「清里村おこし会」が青年団に呼び掛け

全く新しい発想での手作り祭りがスタートした。

豚の姿そのままの焼く豚の丸焼きや大味噌釜を使ったちゃんこ鍋などその後につながる名物料理もあった。

好景気と昔ながらの集落の盆踊りはどこか違和感あったのかもしれない。

もっと熱く、もっと元気よく、もっと明るくと気持ちは都会的でもあったように思う。

2回、3回、4回と回数を重ねるごとに、熱気の放物線は最高に達して行っただが、

それは本来の持つ力からどこか離れて行っただようにも思える。

バブルの恩恵かは分からないが予算付けも派手になりヘリコプターを飛ばしたり芸人を呼んだり、手作り祭りにお金に依存する刺激的イベントになっていた時代もあったように思う。

その頃から人は少しずつ離れていったが、一部の行政マンと商工会関係者の努力によりその祭りは続くことができた。

しかし、その商工会の人も去り、辛うじて伝統を守りながら頑張ってきたが

西暦2000年平成12年秋ついに実行委員会トップ役員は解散を決断した。

がその中にずっと頑張っていた行政マンが言った

「第1回を知るあの人に相談してからきめよう」と。

そして、その人を中心に新たな祭り探しが始まった。

新しい人に声を掛け斬新的なイベントを求めた。

そして、龍神太鼓ができヨサコイソーランを取り入れ、坊ヶ池から伝説の坊太郎を祭りに連れてくるという聖水神輿もできた。

西暦2001年 平成13年8月4日祭りは復活した。

そして、西暦2005年 平成18年清里夏祭りに名前を変更した。

元気のない集落の盆踊りをこの祭りで復活させたいとなった。

Tシャツから浴衣の祭りへと都会志向から田舎志向へとそんな想いに20年の歳月を経て変わってきたように思う。

それは、時代の波と瓜二つかも知れない。が清里を想うその気持ちは当時も今も変わっていない気がする。

伝統ある祭りには決してなれない運命なのかもしれないが、時代とともに移りゆく祭りでもいいかもしれない。